

病害虫発生予察注意報(第6号)について

今般、県中部の露地栽培ミニトマトにおける7月下旬のトマト黄化葉巻病の発生ほ場率は100%（平年41%）、発病株率は69.6%（平年6.4%）と高く、生産者等への注意喚起が必要であるため、令和6年度病害虫発生予察注意報（第6号）を別添のとおり発表します。

（補足）

県農作物病害虫防除所では、植物防疫法に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査の結果等を分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。

「病害虫発生予察注意報」は重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要が認められる場合に発表します。

（連絡先）

担当課室	鳥獣害対策課	農作物病害虫防除所
担当者	岩倉	岡本崇、南方
電話	073-441-2905	0736-64-2300

令和6年8月9日

令和6年度病害虫発生予察注意報（第6号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：トマト黄化葉巻病
病原ウイルス：トマト黄化葉巻ウイルス (*Tomato yellow leaf curl virus* [TYLCV])
媒介虫：タバココナジラミ
2. 対象作物：ミニトマト、トマト
3. 対象地域：県中部
4. 発生量：多
5. 発生時期：8月～
6. 注意報発表の根拠
 - 1) 県中部の露地栽培ミニトマトにおける7月下旬のトマト黄化葉巻病の発生ほ場率は100%（平成41%）、発病株率は69.6%（平成6.4%）であった（表1）。また、露地栽培の発生ほ場では発病株を抜き取り処分していない場合が多いため、媒介虫であるタバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒虫率が高まっていると考えられる。

表1 トマト黄化葉巻病発生状況(県中部、調査時期:7月)

	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	平成 平均	令和6年 (本年)
発生ほ場率(%)	50	75	33	70	40	44	0	13	14	71	41	100
発病株率(%)	19.5	12.3	1.1	7.8	3.2	5.3	0	0.8	0.6	12.9	6.4	69.6

7. 防除上の注意事項
 - 1) 露地栽培・施設栽培共通
 - (1) 定植前に苗をよく観察し、新葉の退緑がみられる苗やタバココナジラミが発生している苗を本ばに持ち込まないよう注意する。
 - (2) 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
 - (3) 野良生えトマトは伝染源となりやすいので見つけ次第処分する。また、芽かきした茎葉や裂果等の不良果は野良生えトマトの原因となるため、ほ場周辺に野積みせず速やかに処分する。
 - (4) タバココナジラミは寄主範囲が極めて広く、雑草にも生息するため、ほ場内およびほ場周辺の除草を徹底する。
 - (5) 防除薬剤については、最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp>）を参照し、適正に使用する。
 - (6) 薬剤散布にあたっては、和歌山県農業試験場ニュース第142号「タバココナジラミ バイオタイプQに有効な薬剤」
(https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/noushinews/d00213898_d/fil/142_8-9.pdf)も参考にする。

2) 露地栽培

新たな感染を防ぐため、タバココナジラミの発生を確認した場合は、本虫に有効な薬剤を散布する。

3) 施設栽培

- (1) 施設開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、媒介虫であるタバココナジラミの侵入を防止する。さらに、外張り資材に紫外線除去フィルムを使用すると侵入防止効果が高まる。
- (2) 生育初期に感染すると被害が大きくなるため、定期的な薬剤散布および定植時の薬剤処理により、育苗期から本ば初期(8～10月)のタバココナジラミ防除を徹底する。
- (3) 栽培終了後にはすべての株を抜根した上で、7～10日間以上施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、施設外へのタバココナジラミの分散を防止する。

和歌山県農作物病害虫防除所 TEL:0736(64)2300
